

花粉症における ヒノキ花粉飛散の意義

国際医療福祉大学医学部耳鼻咽喉科学 岡野 光博, 岡 愛子

KEY WORDS

- 花粉症
- ヒノキ花粉
- 免疫療法
- Ch a o 3
- IgE

はじめに

ヒノキ花粉 (*Chamaecyparis obtuse*) は春季飛散花粉の1つであり、通常はスギ花粉 (*Cryptomeria japonica*) の飛散後、4月上～中旬をピークとして飛散する。スギ花粉症患者の多くはスギ花粉の飛散が終了した後もヒノキ花粉による症状が続くため、現在ではスギ・ヒノキ花粉症 (Japanese cedar/cypress pollinosis: JCCP) とも呼ばれる。本稿では、スギ・ヒノキ花粉症におけるヒノキ花粉飛散の意義について概説する。

I. 分類学からみたスギ花粉症およびヒノキ花粉症

国際自然保護連合による最新の分類では、スギおよびヒノキはともに裸子(球果)植物門マツ綱マツ目ヒノキ科に属する¹⁾。スギは以前、マツ目スギ科に分類されていたが、DNA解析によ

る系統学手法によってスギ科はヒノキ科のスギ亜科スギ属となった。したがって分類学的な見地から極論すれば、スギ花粉症はヒノキ(科)花粉症の1亜型ともいえ、スギやヒノキ花粉によって引き起こされる花粉症はヒノキ科花粉症と総称できるのかもしれない。しかしながら、その歴史を鑑みてもスギ花粉症の名称は国際的に広く認知かつ評価されており、ヒノキ科花粉症に統合できるものではない²⁾。

一方、スギ以外のヒノキ科花粉としてはヒノキ属のヒノキ以外に、ネズミサシ属のネズ(ネズミサシ、ムロ)やハイネズ、イブキ属のビャクシン、アスナロ属のヒバなどがある。これらの花粉はスギのような突起(パピラ)を有しておらず、外観的にはヒノキ花粉とはサイズの大小を認めるのみである³⁾。したがって、外観のみでヒノキ花粉と完全に区別することは難しい。

Role of Japanese cypress pollen in pollinosis.

Mitsuhiro Okano (教授)
Aiko Oka (助教)